
お隣さんは極道さん

蓮花あい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お隣さんは極道さん

【Nコード】

N4002A

【作者名】

蓮花あい

【あらすじ】

仲良し夫婦の隣に引っ越してきたのは、極道の3兄弟。義理人情に厚い彼らとはちゃめちな生活が待っていた。

波乱のはじまり

お隣りは極道さん 第一部

「なんか騒がしいね」キーをたたくのをやめて聡史が言った。

「お隣の空き部屋、今日入居で引越しだって」桃子は洗濯物を干しながら答えた。

聡史と桃子は結婚2年。大学の先輩後輩で付き合って3年で結婚した。

夫の聡史は31歳、大学に残って講師をしている。専門は古代ローマ史。

妻の桃子は28歳、アパレル関係で企画の仕事に慣れてきたところだ。

頭はいいけど、ちょっと頼りない感じの聡史と、少し天然だが、あっけらかんとした桃子は

仲がよく、それなりに普通の新婚生活を送っていた。

そのベルが鳴るまでは・・・

ピンポーン

「どなたですか？」

「今日となりに越してきたもんですが・・・」

桃子がドアを開けると

そこには3人の男が立っていた。

首に金のネックレス、腕にロレックスのダイヤ入り時計、派手な柄の赤シャツに黄色のネクタイ、紫のスーツ、エナメルの靴という、どこのパーツをとっても間違えようもないほど完璧に

それは極道さんだった。

そして格好も容姿も違うが、いずれもパーフェクトな極道さん2号3号が

その背後に立っていた。

（ああ、よくVシネマに出てくるような極道さんたちだね。川翔とか竹 力とか。

どうしよう、はじめて見ちゃった、こういうときそれ流の挨拶のやり方とかあるんだよね、こんなことなら仁義なき戦いシリーズとか見ておけばよかったわ、レンタル半額デーに）

桃子が固まりながらも頭でこんなことを考えているうちに、男の手が桃子の

前に差し出された。

「な、な、なにをするんですかっ！ 僕らは善良な市民です、その道の方々にいちゃもん

をつけてこられず筋合いはありません！！」と後ろの部屋から飛び出して桃子の前に立ち
はだかり聡史は叫んだが、その声は蚊取り線香でへろへろになった蚊の飛ぶ音より小さく
弱弱しかった。

「今日隣りに越してきました。これ、引越しそばの代わりっす。今度ともよろしく、
それじゃまた」

極道1号（桃子命名）が聡史に渡したものは「ピヨコちゃんの天使の入浴剤 森の香りと
グレープフルーツの香り&お肌に優しい天然素材のタオルセット」
だった。

「わー、これほしかったんだよね、人気があつてどこでも売り切れなんだよ」

桃子はセットに入っていたピヨコの浮きおもちゃのおなかをプクプク押しながら喜んだが、

聡史は妻のように気楽には考えられなかった。

「・・・どうしよう、もし洗濯物が風で隣のベランダに飛んでいったら、僕に取りに行く
勇気があるんだろうか・・・」

かくして二人の平穏な生活はこの日から波乱の日々へと変わったのである。

熱い3兄弟（前書き）

若夫婦の隣に越してきたのは、なんと極道3兄弟だった。

熱い3兄弟

お隣さんは極道さん 第二部

「アニキ、やつはこの格好はカタギの人にはまずいんじゃないのか？」

のつばの極道2号こと、次男の剛がいった。

「バカヤロー！人間第一印象が大事なんだよ、きちんと正装して挨拶いれるつてのが礼儀つてもんよ」

弟の顔を見上げて、長男の哲がにらんだ。

「でもさー、コーディネートが古くない？今時こんなべたな服、さすがに見ないよ、いけてないつて」

極道3号こと、三男の翔が哲のスーツをめくりながらいった。

「うつせー！そついや、腹減つたな。剛、なんか飯作れよ」

「今夜はマダガスカル風グリーンカレーにするかな」

「えー、また無国籍料理かよ、いい加減まともなもののマスターしてよ」

「あんだと！弟のくせに生いつてんじゃねー！だったら自分で作れ！いい年こいて、いまだにアニキを頼るんじゃねーよ、半人前の分際で」

「少しくらいでかくて年くつてるからつて、そこまで威張れんのかよ！」

上等じゃねーか、この際きつちりケジメつけさせてもらうぜ！！」

「てめえら、いい加減にしねえと、出刃で腹にどらえもん書いちゃうぞ！」

大体マンションの廊下でガタガタ騒いだら近所迷惑だろうが、ちつとは

社会人としてのモラルを考えろ！ほら飯、飯」

三兄弟が部屋に入っけいき、ドアで聞き耳を立てていた聡史と桃子は無言でソファ―にへたりこんだ。

「あの人たち、やはりれっきとした極道だったんだな・・・」
聡史がつぶやく

「驚いたわ・・・全然似てないのに三兄弟だったなんて・・・」
桃子がため息をついた

「・・・そういう問題じゃないと思うけど」
「・・・それに、マダガスカル風グリーンカレーってどんなのかしら」
「・・・」

夕焼けがやたら鮮やかなオレンジ色の空だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4002a/>

お隣さんは極道さん

2010年10月9日02時36分発行